

上田市教育委員会12月定例会会議録

1 日 時

令和元年12月18日（水） 午後3時00分から午後3時54分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	北 沢 秀 雄
委 員	平 田 利江子
委 員	横 関 妙 子
委 員	綿 谷 憲 一

○ 説 明 員

中澤教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、西嶋人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、宮越武石地域教育事務所長、小泉中央公民館長、武捨第二学校給食センター所長、山口上野が丘公民館長、柳原上田情報ライブラリー館長

1 あいさつ

上田市は今年仕事納めを行わないことになった。市長部局、教育委員会も行わないことになり、各課各所属で仕事納めを行う。災害等もあったことでもあるが、私自身はできるだけ会合の簡素化ということはできるだけ大事にしていきたいと考えている。そうはいつても今年、教育委員の皆さまにいろいろとご心配、ご助言をいただいて進めてきたが、振り返ってみるといろいろな内容があった。例えば、第二給食センターは建設に向けて大きく動き出した。エアコンの件にしても、非常に子どもたちは快適に利用しているようである。後ほど説明があるが、歴史文化基本構想の策定が終わり冊子もできた。生涯学習に関わっては公民館活動の充実がある。偉人講演会の開催や青少年育成のための夏のキャンプも大変好評であった。学校のニーズに応えたコミュニティスクールの促進も行っている。スポーツ推進の関係では、イタリアからラグビーチームが菅平へ合宿にきたこと。それに関わっていろいろなイベントが行われ、例えば、イタリア料理店ボンデールのシェフが菅平中学校へ行きイタリア料理を作っていた。ほか、幼稚園から小学校までタグラグビーの普及があった。また、施設だが、神川公民館は保育園と公民館が合築で完成している。武石地域の総合センターの起工式が終わり、建設の途中である。博物館では戊の満水の企画展があった。そうこうしているうちに台風19号が猛威を振るい、大変な事態になった。教育委員会関係では、学校では倒木と雨漏りがあった。ところが、体育施設のダメージが非常に大きくて、千曲川の河川敷の中にあるマレットゴルフや野球場などが使用不能になっている状態で、これの復旧については非常に予算が掛かり大変な労力が必要となる。そのようなことで今年1年が終わるわけだが、それぞれ部署で持ち場をしっかり守っていただき、今日までワンチームでこれたことを嬉しく思っている。これについても協議会の会議で教育委員の皆さんに大事な点をご指摘いただいて事業が進んできたことが大変大きかったと思っている。

2 協議事項 なし

3 報告事項

(1)「全国山城サミットプレ大会」の実施報告について（生涯学習・文化財課）

○資料1により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

1 プレ大会の開催結果について

11月2日に西部公民館大ホールにおいて行われた。約130人の方が全国からお集まりいただいた。基調講演、あるいは分科会等が行われた。結果として、市民だけではなく首都圏からも参加があり、初心者向けの内容も好評であった。熱心な聴講者が多くみられ、来年のサミットを待ち望む声が多く聞かれたということである。この関連で資料の裏面をご覧ください。

2 全国山城サミット上田・坂城大会の開催について

これまでの経過については、資料をご覧ください。開催目的については、山城の魅力を発信する。これまで西部公民館や上野が丘公民館が市民団体と協力して盛り上げてきた。こうした取組は山城を掲げている地域にとっても非常に参考になるのではないかと問題提起をしていきたいと思っている。開催日程は、令和2年10月31日（土）から11月1日（日）まで。内容については、シンポジウムをサントミューゼで、エクスカッションは、現地の見学ということで砥石米山城、葛尾城そういったところを予定している。なお、経費については、実行委員会が県の支援金「地域発 長野県元気づくり支援金」を申請し、活用する予定である。上田市としても若干の負担金があるということである。実行委員会については実行委員会の運営を生涯学習・文化財課が支援していく予定である。

峯村教育長

ご質問やご意見があればお願いしたい。

平田委員

来年の山城サミット上田・坂城大会について。今年度行われた第26回の可児大会は観光的な要素も含め大変盛り上がったとお伺いしたが、ここに記されている開催目的が重要であると考えている。イベントとして一過性で終るのではなく、保存団体を中心とした実行委員会と連携し、学術的研究や史跡保存、地元との共生を見据えた活動に繋がることを期待している。また、学校教育課と連携し、小・中学校のふるさと学習に活用するなど、子どもたちにも発信してほしい。

北沢委員

山城サミットは、山が隣の坂城町とつながっていることで、上田市は坂城町と連携していると思うが、教育委員会の関係で、他の市町村と連携している事業があれば教えていただきたい。

竜野生涯学習・文化財課長

他市町村との連携については私の中ではあまりないかと思う。スポーツや学校などであるかもしれない。この山城の特徴は、山につながって行政区に関係なく、つながれるということが大きな魅力だと思う。そういう意味では非常に画期的である。連携については、坂城町の実行委員会さんと実行委員さんと若干の温度差はあるらしい。山つながりでは皆同じ共通認識でいるが、上田の実行委員さんは公民館としっかりと組んでいる。だからこそ今回連携して、市民団体と行政のつながりでこのようなことができると皆さんに伝わるとよいと思っている。そういったお付き合いをさせていただいている。

北沢委員

とても良い取組だと思うのでぜひ進めていただきたい。

○全員了承

(2)令和元年度「青少年善行表彰」及び「家庭の日」の作文審査結果について(生涯学習・文化財課)

○資料2により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

- 1 青少年善行表彰 審査結果を受けられた方が資料2に掲載されている。個人で3名、団体で3団体の方が表彰された。北沢さんについては「おけまる食堂」の関係、上田東高等学校JRC班皆さんにおいては、同じく「おけまる食堂」の関係、久我さんにおいては、大星神社で倒木があった際に道路の混乱を回避するために自ら交通整備を行った。長谷部さんについては、「フィリピンの医療ボランティア ハロー・アルソン」に高校生ボランティアとして参加をし、学校の中でも広めてきたこと。そのほか、小林さん以下4名の方については、上田市の子ども連絡教議会の小学生対象自然キャンプにボランティアとして5年間関わってきていただいた。また、中村さん、松浦さん、丸山さんについては、千曲高校の部活動の帰り途中に、困っていた高齢の女性を3人が適切に病院までの援助を行った。今回の特徴とし

て、全て高校生がこのような取組をしていただいたことで心暖まる形で表彰させていただいた。

- 2 「家庭の日」の作文 審査結果について、今回は応募作品が394作品（未提出を含む）、未提出は、学校であらかじめ審査をして報告だけあった方である。入選作品として、優秀作6点、優良作品12点である。昨年より40人ほど参加数が増えたこと、作品については資料記載のとおりである。作品集ができたところで皆さまにお配りしたいと思っている。
- 3 青少年善行表彰及び「家庭の日」の作文 表彰式については、それぞれ11月30日（土）上田創造館のホールにおいて、土屋市長、峯村教育長に出席いただいて表彰式が滞りなく行われた。

峯村教育長

ご質問、ご意見があればお願いしたい。

高校生の皆さんは大変さわやかな好青年の印象であった。このような子どもたちが活躍してくれている上田市は本当にありがたいと思う。

○全員了承

（3）上田市歴史文化基本構想冊子及び概要の作成について（生涯学習・文化財課）

○資料3により竜野生涯学習・文化財課長説明（要旨）

1. 「上田市歴史文化基本構想」の構成について

今年の事業として予定していた「上田市歴史文化基本構想」の策定について、お手元に概要版と冊子をお配りしているが概要版でご説明させていただく。

第1章から第8章でまとめられていて、まずは第1章をご覧いただきたい。こちらは、上田市における文化財保護のマスタープランとして作成した。第4章においては、上田市の文化財において、調査・研究に努めて10項目の基本方針を決めた。第5章では、上田市を特徴付ける関連文化財群を次の6つに類型化した。①信濃国分寺と仏教文化財②水と信仰の農業開発文化財③真田氏の活躍と城郭文化財④城下町と街道筋の文化財、⑤蚕都上田の文化財⑥近代の保養・観光開発の文化財である。今年、これからの日本遺産のストーリーについて組立をしているところである。

2. 他市の策定状況について（平成30年度末）

全国111市町村において策定をし、県内は2市の松本市と上田市のみである。

3. 市民への周知について

現在、基本構想ができたので、2月、3月にかけて各公民館の公開順に住民説明会を行う予定である。基本構想の周知はもとよりだが文化財の保存活用ということで、地域の文化財は地域で守り活用していただきいただきたいといった機運を醸成したいものである。2月5日（水）丸子の会場を皮切りに3月3日（火）の武石まで行っていく。なお、説明会にいらっしやらない方もホームページ等で掲載を知るのでご覧いただける。また、出前講座を使っ

4. 今後のスケジュールについて

これで終わりではなくて、この基本構想はあくまでもプランなので、これを総合計画に移していくことで文化財保存活用地域計画を目指し、令和2年、3年にかけて取組んでいきたいと考えている。

峯村教育長

ご質問等があればお願いしたい。

横関委員

県内では2市が策定。上田市ではこれだけのものをまとめいただき、3年の間ご尽力いただき感謝している。大変素晴らしいものができたが、ではどのように活用していくのかがいちばんだと思う。概要版の第8章方針では、「庁内体制・横断的な組織を構築するとともに、各種審議会に歴史の専門家や文化財職員が参加することにより庁内の連携を強化し、歴史文化の視点から市の内部の様々な施策を管理するネットワークと組織構築による一貫したコンセプトに基づくまちづくりの実現を目指す。」とある。ここが非常に重要なところだと思う。私も住民自治組織であるまちづくりの会を市民参加・協同推進課の方と連携して行っている。そのまちづくりの会の自然・生活環境部会では長野大学の前川教授のゼミ生とともにまちを歩き北国街道を中心に歴史遺産マップをデータ化しどのような文化財があるかクリックすると説明が見られるマップを作成している。そのように住民自治組織としても活動しているのだが、これをどのように庁内の体制で横断的な組織をつくるのか。同じような事を各部署それぞれで行っているように思う。防災も関係してくると思うが、今後の体制についてどのような見通しがあるのかお聞きしたい。

竜野生涯学習・文化財課長

既に取り組んでいるものが都市計画課との連携である。都市計画課とは、文化財の景観、あるいは組立てる計画の中でまちづくりをしていく計画だが、その中に生涯学習・文化財課の文化財の担当と一緒に取り組んでいる。また、他にも商工課、あるいは各地域の自治センターの関係など、それぞれのところに文化財の担当がある。文化財を登録文化財、指定文化財のみならず、登録されていない文化財が多数ある。そういったところで地域にはまだまだ埋もれている文化財があり、そういったところの連携の中でできていくのかと思う。それを謳っていくのが文化財保存活用地域計画というもので、これを行動計画としてつくっていくことで次に移っていきたいと思っている。

横関委員

ぜひ、庁内体制・横断的な組織の構築を行い市民に分かりやすい体制づくりをしていただきたい。

平田委員

具体的にこういった形で周知をされるのか。どなたが行かれ、どのような周知をされるのか。

竜野生涯学習・文化財課長

その説明会自体は広報、ホームページ等でも掲載してお知らせをしていく。

平田委員

どなたが行かれ、どのような形で周知されるのか。

竜野生涯学習・文化財課長

説明は当館の文化財担当の職員が出向き、この計画をつくった職員とそれぞれの地域に合せて重点的にこの地域についてはこのような文化財があるという形の説明を行う予定である。

平田委員

市民の皆様に分かりやすい説明をお願いしたい。具体的にどのような形の説明になるのかお聞きしたい。

竜野生涯学習・文化財課長

文化財についてはパワーポイントなどを使って仏像等の映像をお見せしながら視覚的に見ていただく準備はしている。

○全員了承

(4)「令和元年度生涯学習シンポジウム」の実施報告について(生涯学習・文化財課)

○資料4により竜野生涯学習・文化財課長説明(要旨)

毎年、生涯学習シンポジウムが行われ今回で12回目となる。今回は少し趣向を変えて市内各地で活動されているNPO法人、市民団体の方にお集まりいただいた。今回の趣旨については、「人や地域とのつながり」をテーマに情報発信、情報共有などを協力するとともに団体同士などの連携ができればということで交流が行われた。それによって、学びというものが活動につながって役立てることが今回の目的であった。内容としては、それぞれ違う分野で活動している市内10団体にお集まりいただいてプレゼン大会をしていただいた。どんな目的でこの活動がはじまったのか、どんな活動をしていてどんな課題があるのかということ伝えていった。その中に必ず学びの要素が含まれている形の発表をしていただいた。また、ポスターセッションということで団体の紹介、最後にスクール講演会ということで元松本大学の専任講師の先生にそれを踏まえて講演をいただいた。成果としては、「時間は短かったけれどもその分密度が高く、良かった」「地域づくり、人と人のつながりづくりに、日々貢献している方々がたくさんいることを具体的に知ることができた」などの感想が寄せられた。最後に裏面は新聞の資料だが、ここに10団体の名前を掲載させていただいたのでご覧いただきたい。

峯村教育長

ご質問ご意見があればお願いしたい。

○全員了承

(5)「令和元年度第59回上田市短詩型文学祭」の実施報告について(中央公民館)

○資料5により小泉中央公民館長により説明(要旨)

短歌、俳句、川柳、現代詩の4部門について児童生徒および一般の方を対象に作品の募集を行っている。一般の部では117人の方から183作品、児童生徒の部は小学生、中学生が対象で小学生が977人、中学生543人から1,520作品の応募をいただいている。合計1,637人から1,703作品が寄せられた。昨年と比較すると応募者は136人で9%増ということでおもに小学生の方と出ている。受賞作品の選定を行って、これらの中から12月1日(日)に上田文化会館大ホール、中央公民館会議室で短詩型文化祭を開催し表彰式を行った。児童及び関係者の方、約250名の方がご参加いただき、終了後には部門別に分かれて講評等の作品研究会を開催されている。なお、入選作品については、お配りした資料の中にある中央

公民館だより12月号で掲載し、それと同時にお手元にあるピンクの冊子にも第59回短詩型文学祭の全作品集を掲載している。中央公民館だよりと冊子は中央公民館に設置して配布を行うことで広く皆さんにお知らせすることとしている。ぜひご覧いただければと思う。

峯村教育長

ただ今のご説明についてご質問、ご意見等お願いしたい。

○全員了承

(6)こころのプロジェクト「夢の教室」の実施報告について（スポーツ推進課）

○資料6により池田スポーツ推進課長により説明（要旨）

本年度について10校10クラスで「夢の教室」を実施している。南小学校以下、ご覧の各小学校において、サッカー、バスケットボールほか、各競技の講師をお招きして実施している。児童数については100名の参加である。これまでに平田教育委員、横関教育委員にもご視察いただいている。平成25年からはじめている48校103クラスをこれまで実施して、延べ2,899名の児童が受講されている。学校の先生方の感想では、「集中して話を聞くことが難しい子も、夢先生のお話がとてもよかったため真剣に聞くことができた」等々のご感想をいただいている。なお、菅平小学校は人数が少なかったことで、特別に体操ミニ指導を実施していただいていると報告を受けている。昨年のご報告を申し上げた際にこれは夢の教室の授業だが、対象が5年生ということで、受講した中で夢を持つことの大切さ等々について、他の下級生をどのようにして広めていくのか、伝えていくのか教育委員さんからご意見をいただいた。なかなか方法は見つからないが、もう少し研究させていただき、ご了承いただければと思っている。今回、こころのプロジェクトの報告の他にもさまざまなスポーツの教室が各協会で行われている。障がい者スポーツ団体の方でも同等のプログラムがあるので、今後、他の方も広げられればというようなことも含めて考えていきたい。

峯村教育長

ただ今のご報告についてご質問、ご意見等お願いしたい。

平田委員

ベテランの講師の方の授業を拝見させていただいた。100分2時間、子どもたち一人ひとりが真剣に授業を受けていた。大変有意義な内容であり多くの子どもたちに伝えて欲しい。校長会で横関委員も仰っていたが、先生方も一緒に見ていただき広めていく方法もあると思う。費用対効果も考え活用していかなければいけない。

横関委員

私も拝見させていただき、子どもたちが自分たちで考えられるようにきちんと言葉を投げかけて、言葉のキャッチボールができていることが素晴らしいと思い、子どもたちの可能性を感じた。かわる先生で子どもたちが生き生きとする。そんな先生方であってほしい。学校の先生方が夢先生になってくれたらと思う。この事業は中学2年生の子どもたちにも対象としている授業なのか。

池田スポーツ推進課長

そう。

横関委員

小学5年生と中学2年生が対象だと思うが、上田市の教育に対する予算が少ないと広報うえだ12月号を見て思った。いろいろな外部の人たちに触れることで子どもたちが大きく成長していくことがあると思う。ましてや今の教育はそうようになってきているので、中学2年生でも「夢の教室」が受けられるよう上田市として教育の予算をもっと頑張っていただきたい。やはり子どもたちがあって、市民あってこその上田市だと思うので、人育てを大切にして、そしてまたここに戻ってきたいという子どもたちに育てていくことは、やはり教育委員会としても大事なことだと思う。そのようなところにお金をかけるべきだと思う。ぜひ行政に頑張っていただきたい。

池田スポーツ推進課長

新年度の当初予算編成の時期である。予算編成の方針が示されるが、上田市の財政課の方で示した予算の方針については大変厳しいような形での予算の組立をしようということである。この心のプロジェクト「夢の教室」当初の予算は150万円ということで進めてきていたが、ここ2年目のところで対象者を広めたいということで、200万円余の予算で進めてきた。もしかすると、新年度についてはなかなかそこまで難しいかもしれないという状況があるかもしれない。今現段階では編制途中であるので、3月の議会でも予算を調定していくところである。できるだけ頑張りたいと思っているがなかなかというところが現実である。できるだけ財政と極力話をしていきたいと思う。

○全員了承

（7）「地域とともにある学校づくり研修会」実施報告について（生涯学習・文化財課）

○資料7により竜野生涯学習・文化財課長により説明（要旨）

資料7をご覧ください。「地域とともにある学校づくり研修会」はコミュニティスクールの関係で研修会を行った。11月11日（月）サントミューゼ小ホールにて参加者115目鵜の方にお集まりいただいた。講師については、文科省CSマイスターであるNPO法人まちと学校のみらい代表の竹原和泉さんにお越しいただいた。内容については、資料の下にも記載のあるとおり、上田市ホームページに掲載しているのでご覧ください。抜粋の中で竹原さんは非常に熱い方で「誰かが助けてくれる、のではなく、自分たちが、自分たちの学校・地域を、自分たちの力で再生していく『当事者』として行動する。地域で深い学びをした子どもは地域に戻ってくる。コミュニティスクールを通じて、そんな未来のまちづくりにつなげたい。」ということをお伝えいただいた。若干、上田市のコミュニティスクールとは違って、国のコミュニティスクールを推進している取組だが本質的には同じと思った。アンケートにもあるが、「これからの社会を牽引していくのは、いま学校で学んでいる子どもたち。学校と地域が一つになって、子どもたちのためにできることを工夫していきたい。」というように認識を深くされた方もいらっしゃる。いずれにしてもこういった取組を続けていきたいと思う。

峯村教育長

ただ今の報告について、ご意見ご質問のある方お願いしたい。

横関委員

参加者の保護者が5名ということで、コミュニティスクールに参加していただくために、どのような働きかけが必要かというお考えはあるか。

竜野生涯学習・文化財課長

学校からも協力をいただき、PRが必要だと思う。公民館などのようなところに保護者の方がなかなかきていただけない部分もある。一方で、地域を通じても当然PRをしていきたいと思っているが、PRについてももう少し検討していきたいと思う。

横関委員

ぜひ学校教育課などと連携しながら進めていただきたいと思う。日付についてだが、月曜日ということで保護者や学校教職員、管理職の行きづらい設定になっていると思う。もしこのような研修会を行うのであれば休日に行えばより多くの方に参加していただけるのではないかな。広報12月号にも掲載されているが、第2次子育て支援事業計画（案）があるが、保育課等で立てられたものがあるかと思う。昨日、ホームページに掲載されたばかりだが、学校教育にも関係することがたくさん掲載されていたがご存じか。子ども子育て支援事業計画（案）というもので、広報の12月号に掲載されて事業計画案ができた。令和5年度までに連携型を含めた放課後子ども教室の全小学校区の設置を目指すこと。要するに学校や子どもたちを取り巻く環境をこれから整備していくということを、子育て・子育て支援課から教育委員会も関係するような事業だと思う。こちらを実現するとなるとかなりの予算がかかると思う。ホームページの内容に統計があったが、案外働いていないお母さん、保護者の方が多くいらっしゃるということが分かった。またアンケートによる様々な統計が掲載されていた。保護者の方々には地域だけに任せるのではなく、保護者が当事者となり協力していく気持ちを高めていかないとと思う。いつも地域に任せてではなく、自分たちで守っていかねばならない。又、退職した方たちに任せていくのではなく、自分たちの子どもは自分たちで守っていくこと、学校は保護者と一緒に盛り上げていかないとこのコミュニティスクールがだめになってしまうことがあると思う。保護者が忙しいのかと思ったらそうでもなく感じて、たとえ1日でもいいから学校にきて子どもに読み聞かせをしていただきたい。年に1回でいいというそれだけでも参加すること、子どもたちを見ることも大事なことだと思う。ぜひ、学校教育課からも保護者に投げかけということをしていただきたいと思う。ちなみに三中は本当にボランティアとして活動していただいている西田さんという方がコーディネーターとして「三中応援団ニュース」をつくり学校で配布し積極的に活動して下さっている。コミュニティスクールがどのようなものなのか、どのような活動をしているのかなど全てご自分の時間を使って作っている。各種保健検診の付き添いも保護者サポーターの方を集って行っている。読み聞かせも保護者サポーターの方がきて読み聞かせをして下さっている。コーディネーターの西田さんは本当に無償で行っているが、いつまで続くのかということがある。コーディネーターは公民館で行っているところもあれば教頭先生が行っているところもあるが、このまま無償で行っていても良いものなのか、そのあたりも検討していただきたい。どのような体制づくりをしていくかまた保護者の方々のコミュニティスクールへの参加についてもお願いしたい。

○全員了承

（8）YA っ H0ー！ 6 5 号（生涯学習・文化財課）【説明なし】

○資料 8

(9) 行事共催等申請状況について(学校教育課 生涯学習・文化財課 スポーツ推進課)

【説明なし】

○資料 9-1 9-2 9-3

(10) 「第3回みんなの人権セミナー」の開催について(丸子地域教育事務所) 【説明なし】

○資料10

(11) 公民館だより(各公民館) 【説明なし】

○資料11

4 その他

令和元年度上野が丘公民館の事業について(上野が丘公民館)

○資料12により山口上野が丘館長により説明(要旨)

普段、紹介することが少ない事業についてご紹介させていただく。

資料12をご覧ください。

- 1 建物等概要、2 公民館活動の内容については資料の記述のとおりである。
- 3 令和元年度の重点取組について、その中の(2)地域課題学習ということで、地域課題や地域の特性を取り上げた講座を地域住民や団体等と連携しながら開催していくという取組を重点的な目標にあげた。こちらについては、今回2点ほど取組を行っている。1つは、先ほど、生涯学習・文化財課長からお話があった来年の「山城サミット」に向けて、山城サミットを盛り上げたい事業を地域の方や山城の保全活動をされている団体の皆さまと山城サミットを盛り上げるアイディアのワークショップを6月から8月まで3回行った。そのアイディアの実現にこぎつけたものもあり、現在準備を進めているものもある。もう1点は来年の2月22日に開催される安心地域づくりセミナーの公開講座である。こちらは、地域住民の皆さまからなるセミナーの実行委員会、神科、豊殿の住民自治組織を皆さんと現在準備を進めている。当日は認知症当事者と一緒に考える安心づくりのテーマを公民館で開催する予定である。
- 4 特徴ある事業は、普段皆さまになかなかご紹介できない事業なので、この場でご紹介させていただく。1つ目は、(1)第29回上野が丘地区青少年の未来を考える集いになる。11月30日(土)に行われた上野が丘地区青少年育成推進連絡会議の皆さまと準備を進めてきた。今年度は「演劇の力 生きる力」のテーマで資料の⑥内容に記されているプログラムで開催した。特に、この上野が丘公民館の近くには、第一中学校、第三中学校、第五中学校があるが、今回は第一中学校の演劇部と第五中学校の美術部に協力していただいた。特に第一中学校演劇部による創作劇「おじいさんと詐欺師」は、中学生自ら書き下ろした創作劇でとても奇想天外な内容で驚いたが、中学生のいきいきとした演劇が大変好評であった。聞くところによると市内中学校のうち、演劇部のある中学校は第一中学校のみということである。普段、生の演劇、しかも中学生の演劇を観たことのない地域の大人にとってはとても新鮮な体験であった。この日のために演劇部の皆さん、五中の美術部の皆さんは何度も公民館へ通って準備を進めて下さった。特に、正面玄関のところにある今回のためにつくったゲートがある。このテーマはファンタジーということで、かなり大がかりな壁の装飾になっている。あまりにも好評なので来年の年明けの成人式の方まで飾る予定なので、もし機会があればぜひご覧ください。

次に、資料の裏面をご覧ください。(2)えんぴつ散歩の事業についてご紹介させていただきます。えんぴつ散歩は平成7年から始まり、現在23集まで制作されている。①の概要にもあるが、地域を訪ね、心の感動を文章にし、講座終了後文集を作る。とひと言で言ってしまうとこのような講座だが、ここの講座に至るまでをこの間、平成7年度から職員の何人も変わったのでなかなか当時のことは分からなかったが、これを掘り起こしてみると、第一集のところに当時の講師の平野勝重さんがこのように記してあった。「この作品のもうひとつの特徴は、平成7年現在の神科・豊殿地区の様子が部分的ではありますが記録されているということです。いまは、誰もが知っている平凡な事が書かれているように思えるかもしれませんが、三十年後、五十年後のひとたちにとって実は貴重な記録になることでしょう。地域の歴史にとってこのような日常の記録が実に大切なことはいまでもありません。」と記してある。平成7年度から平成30年度までの内容が資料に記してある。特に、平成30年度えんぴつ散歩には、うえだの人物を訪ねてとある。この講座は第7回までは公民館の主催講座ということで開催している。1回目の文章作成の基礎学習からはじまって、2回目以降は現地研修を重ね、7回目に閉講式を行っている。平成30年度は上田の人物を訪ねてということで7回の講座を開催した。講座終了後に受講生たちが集まって編集委員会を立ち上げて自分たちで編集をしてお金を出し合い、自費出版としてこのような冊子にしている。これがずっと続いている講座である。特にふるさとうえだ人物伝、こちらについてとても感動したことがある。なぜうえだの人物を訪ねてというテーマに平成30年にしたかということだが、先ほど宣伝に出されたふるさとうえだ人物伝を手にとった受講生の方がこのふるさとうえだ人物伝に女性は何人も収録された。だけど上田出身の女性たちのことを自分たちは何も知らないことに気づいて反省したそうである。あまり知ることのなかった言葉を換えれば、マイナーな方たちにスポットを当てようではないかということであらう。うえだの人物を訪ねて、こちらをテーマに作った。これはこの編集委員会の皆さんが1冊500円で販売をしている。令和元年度現在は、「海を越えてきた文化」ということで制作中である。資料の下の方に今年度の予定が記載されている。12月5日の閉講式が終わり、先ほどの編集委員会が立ち上がり準備中である。今のままでいけば、3月には新しいえんぴつ散歩が誕生するので、機会があればご紹介させていただきたいと思う。

峯村教育長

ご質問はたくさんあると思うが、時間の都合でよろしいか。各所属長の皆さんの今後の様子を触れたいと思う。真田地域教育事務所は、間もなく福岡県の岡垣町と和歌山県の九度山町から子どもたちがきてスキーの交流、ホームステイ等を行う。丸子地域教育事務所は、西内小学校の今後について、アンケート調査を行ったりして今後の西内小をどのようにしていくか検討していただく。上田情報ライブラリーは、上田地域公共図書館のソフトの入れ替えということで間もなくはじまる。それでは以上で本日の定例会を終了にする。

○全員了承

閉 会

教育委員会会議規則第 21 条の規定により署名する。
